

参加者へのインタビュー

(Aさん夫婦)

包括支援センターの職員さんに教えていただいたことがきっかけで参加し、2年ほどになります。

週に1回、他愛のない話をしたり、ゲームや季節の創作活動をすることが、私たち夫婦にとって何よりの楽しみです。

ずっと家にいても変化がなく退屈ですが、みちくさが外出のきっかけにもなり、気分転換や脳の刺激にもなっています。

1人で参加することが難しい人は、家族や友人と一緒に気軽に参加してみてほしいです。みちくさは、多くの人に足を運んでほしいと思う大切な場所です。

みちくさの特徴

◎県内初の認知症カフェ

平成25年に開設し、今年で12年目。多くの人の居場所になっています。

◎ケアマネジャーが常駐

介護保険を利用する人やその家族をサポートする事業所である居宅介護支援事業所のケアマネジャーがカフェの運営をしているため、認知症をはじめ、介護保険についての相談も気軽にできます。

◎駅近！予約不要！

JR三里木駅から徒歩3分。

予約不要で好きな時間に参加できます。

◎アットホームな雰囲気

民家の一部を活用して開設しており、のんびりとした雰囲気で楽しく過ごせます。



同事業所の春木洋子さんは「毎週開催しているからといって、『毎回通わないといけない』『何か相談しなきゃいけない』といった場所ではありません。寄り道気分で、気軽に寄れるこここの拠り所でありたい」とおっしゃる。みちくさは、毎週金曜日に、認知症に関する相談・情報共有はもちろん、家族のちょっととした休息や交流も楽しむことができます。また、地域の人も気軽に参加・交流ができる「地域の縁がわ」としても開放しており、月に1度演奏会などのイベントも開催しています。

お困りのこととは、地域包括支援センターにご相談ください！

町地域包括支援センターは、高齢者の総合相談窓口として介護保険課内に設置しており、保健師、主任ケアマネジャー、社会福祉士などの専門職が、高齢者に関する生活の相談を受け付けています。

また、認知症の専門相談員である「認知症地域支援推進員」も在籍し、認知症の人やその家族、地域の人からの相談対応や、認知症の人の見守り支援制度の提案などを行っています。

☎ 096(232)2366(午前8時30分～午後5時15分(土日祝)を除く)



いつまでも自分らしく暮らすための居場所

今や身近な存在となった認知症。令和4年10月時点での町の認知症高齢者は1,226人で、高齢者の8人に1人は認知症とされています。認知症は誰もがなる可能性のある病気で、決して他人事ではありません。自分や家族がいつなるか分からない。だからこそ、認知症になつても安心して暮らせる地域づくりが求められています。町では、以前から町民が主体となつて、認知症の理解を深め、地域で支える取り組みが行われています。

認知症カフェ みちくさ

あなたは、自分や大切な人が認知症になつたらどう暮らしたいですか。今回は認知症になつても安心して暮らすための取り組みを紹介します。



カフェを運営する三浦さん、春木さん(写真左から)

思いを形にした
楽しく集える場所

町内唯一の認知症カフェ「みちくさ」。JR三里木駅近くにある小さな看板が掛けられた民家で、奥に入れば、さまざまな植物が出て迎えてくれ、玄関からは楽しく談笑している声が聞こえできます。「職員が、熊本県認知症コールセンターに通う人から『もっと近くに集える場所があつたらいいのに』という声を聞き、その思いに同調し、自宅を活用して立ち上げることにしました」と当時を振り返るのは、居宅介護支援事業所みうちの三浦久子さん。

認知症カフェ みちくさ

☎ 096(285)7821

- ▶ 開催日 毎週金 午前10時～正午
- ▶ 場 所 津久礼2334番地3
- ▶ 費 用 100円

*カフェに駐車場はありません。
近隣の有料駐車場をご利用ください。

足を運んでいただける場所です。居宅介護支援事業所が運営はしていますが、参加者として同じ立場で話していますよ」と笑顔を見せます。「困ったときに『みちくさ』があつたと思い出してもらえるような場所でありたい」と思いを語る2人。いつまでも自分らしくいるために、たまには寄り道をして、毎週金曜日に温かく迎えてくれるそんな場所として「みちくさ」はあなたをお待ちしています。

↙足を運んでいただける場所です。

「みちくさ」が

あつたと思い出してもらえるよう

な場所でありたい」と思いを語る

2人。いつまでも自分らしくいるために、たまには寄り道をして、毎週金曜日に温かく迎えてくれる

そんな場所として「みちくさ」は

あなたをお待ちしています。